

放送日 令和5年6月5日（月）
担当者 総務部付次長 安田 将人

おはようございます。総務部付次長の安田将人です。

現在、千歳市に事務局がある道央廃棄物処理組合に派遣され、来年度からの広域での廃棄物焼却処理に向けた準備を行っています。組合事務局には北広島市から私を含めて3名の職員が派遣されています。

組合は、千歳市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町と北広島市の2市4町で構成していて、広域で連携することで、経済的で効率的な廃棄物の処理を行っていきます。

今年は千歳市内に建設を進めている組合の焼却処理施設が完成します。この施設は、焼却による熱を回収して発電を行い、施設内で使用して、余った電力を売却することとしており、環境にも配慮したものになっています。今後工事を計画どおり進めるとともに、稼働する施設の管理運営を行う事業者の選定や、運用についての諸課題の整理など、焼却処理の開始にあたって全体が円滑に進むように構成自治体と協力して各種業務を行います。

ごみの焼却処理のスタートが近づき、これまで行ってきた広域化についての業務も節目を迎えることとなりますが、その先も安定的に廃棄物処理を行っていくため、構成自治体や関係団体と協力していきます。

事業の進ちょく状況などは、道央廃棄物処理組合のホームページや広報紙などで皆さんにお知らせします。

引き続き、広域での廃棄物処理業務にご理解とご協力をお願いいたします。

放送日 令和5年6月7日（水）
担当者 市民環境部長 阿部 泰洋

おはようございます。市民環境部長の阿部泰洋です。

市民環境部は、戸籍やマイナンバーカード、自治会・町内会、交通安全、ごみの処理、お墓などの市民生活に身近なものから、男女共同参画や地球温暖化対策、ヒグマ出没時の対応など幅広い分野で業務に取り組んでおります。

今年度につきましては、男女共同参画社会の実現を目指す「男女共同参画推進事業」や、多様な性のあり方への市民理解の促進を図る「多様な性のあり方への理解促進事業」、ゼロカーボンシティの実現に向け、温室効果ガス排出量の削減を図る「ゼロカーボン推進事業」、道央廃棄物処理組合での広域によるごみ焼却施設の稼働や、可燃ごみ中継施設を建設し、焼却処理に対応した収集運搬体制を構築する「ごみ処理広域化事業」、マイナンバーカードの更なる普及を推進することなどを重点事項としております。

市民環境部は、市役所の顔ともいえる窓口において、市民と直接接することが多く、市民と近い距離で業務を行っております。

このことから、常に市民の目線に立ち、市民ニーズに対応するため、職員一丸となって各事業に取り組んでまいりたいと考えておりますので、関連する部署におかれましては、引き続きご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

放送日 令和5年6月12日（月）
担当者 市民環境部次長 山田 基

おはようございます。市民環境部次長の山田基です。

市民環境部は名前のおり市民と直接関わる機会が多い部署で、その中で様々な相談を受けます。今日はその相談の中で、地域課題となっている自治会などの地域団体の運営についてお話しします。

自治会などの地域団体は、住民同士の交流や様々な活動を行っていますが、特に自治会は、私たち職員も含め市民にとって最も身近な団体と言えます。しかし、昨今の人口減少・少子高齢化、そしてライフスタイルの多様化などの影響もあり、事業の縮小や中止、役員のなり手不足などの理由から、団体運営と活動の衰退といった課題が出ています。また今まではイベントや祭りを通じて、地域の方々が互いに顔を知り、コミュニケーションを取るといった交流を持つことができましたが、新型コロナウイルスの拡大によって、これらの場が失われました。このことは、地域のコミュニティが希薄になり、共通の生活地域に住んでいるといった仲間意識も弱くなるという悪循環となっています。今、新型コロナウイルスの感染が落ち着いたことで、自治会などの団体は、自粛していたイベントなどの開催を企画するなど、地域のコミュニティといった繋がりを取り戻そうとしています。自治会などの地域団体は、回覧板による行政情報の周知、ゴミ収集所の管理、防犯活動、交通安全の取組など、様々な分野で行政を補完し、市民の暮らしの中で大変重要な役割を担っていただいておりますので、それらの団体の運営や活動がより活性化するよう、市民環境部として取組を進めていきたいと考えています。

最後に話は変わりますが、今度の土曜日に、広葉交流センター「いこ〜よ」で「北広島環境ひろば2023」を開催します。内容は環境やエコに関する体験・展示コーナーのほか、地産地消などに関する景品が当たる「環境ビンゴ大会」や自転車来場者限定の抽選会、フレップと“きつねダンス”を踊るステージイベントもありますので、子どもから大人まで、そしてご家族にとっても楽しく「環境」について学べるイベントとなっております。皆さんのお越しをお待ちしておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

放送日 **令和5年6月14日（水）**
担当者 **保健福祉部長 奥山 衛**

おはようございます。保健福祉部長の奥山衛です。

保健福祉部は職員一人一人が適正かつ公平・公正に社会保障制度の運用を図るとともに、関係機関や関係団体等との連携を図り、市民の皆さんが安全で安心した日常生活を送ることができるよう日々、所管の事務事業の遂行に努めているところです。

昨年度は、日常の窓口等の業務に加え、新型コロナウイルス感染症に対応したワクチンの継続接種、各種給付金・国民健康保険税等の減免などを実施するとともに、災害時における要支援者の個別避難のための計画作成や、高齢者の健康づくりなどを支援するきたひろ健康ポイント事業、小児科誘致などを進め、概ね予定した事務事業が実施できたところです。

今年度は既に、年度の4分の1を経過しているところであり、令和5年度の重要な事務事業の一つとして市における今後3年間の高齢者及び障がい児・者に対する様々な施策について新たな計画を策定する年となっています。

子どもから高齢者まで全ての市民に対する様々な日常生活における保険・医療・福祉サービス等は様々な法律や制度が支えているところですが、本市の市民が抱える課題を把握・理解し、その現状に応じた施策を講じることに努めていくことが重要であると考えています。

先日、福井県で在宅医療などの地域ケア力の充実に取り組む医師の講演を聞く機会がありました。講師からは、高齢化や人口減少など、今後のまちづくりは、これまでの医師が行う疾患の治療行為に加え、高齢者や障がい児者の多様性や複雑性を認識し、多職種・異業種の連携のもと、意図的に他者との関わり、繋がりを持つ機会を創出し、孤立する状況を防ぐことが身体的にも精神的にも効果があるということがデータとして証明されており、個々の人々の人生が充実したものとなるということでした。

また、様々な運動・スポーツを活用した「まちづくり」を実践している自治体は元気な市民が多いということでした。新たな計画の策定にあたって非常に勉強となる視点でのお話でした。

これらのことに十分留意し、多くの市民の方や関係機関・当事者を含めた関係団体等と意見交換し、連携を図りながら計画策定に努めてまいりたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

放送日 令和5年6月19日（月）
担当者 保健福祉部理事 柄澤 尚江

おはようございます。保健福祉部理事の柄澤尚江です。

昨年4月に設置された福祉総合相談室の室長としてその事務を取り扱います。私は昨年何度か、この福祉総合相談室の体制について、全国レベルの研修会で発表する機会がありました。保健師や社会福祉士という専門職が一つの課にまとまって配置され、子どもから高齢者まで切れ目のない相談体制をとっているという組織は全国的にめずらしく、さらに庁内の事務職との連携も円滑にできていることは大変素晴らしいという評価をいただいています。

ところで皆さんは「精神障がい者」と聞いて、どのようなイメージを持っているのでしょうか。「何をするかわからない怖い人」と思っている方もいるかもしれません。福祉総合相談室で対応している相談の多くにはメンタルヘルスの課題があります。「困った人は困っている人」という言葉があります。例えば、ゴミ屋敷のように近所は困っているのに、ご本人には困り感がないように見える場合があります。でも、実は困っている人ほど自らSOSを発信しづらいということがあります。ご本人がSOSを発信していなくてもいろいろな状況から、この人は困っているのかもしれないという気づき大切です。

私は今年度、厚生労働省から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（略称にも包括）構築支援事業」広域アドバイザーの任命を受けました。にも包括とは、精神障害の有無に関わらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるための地域システムづくりです。これを全国に推進していくため、事業に手上げた自治体に伴走することがアドバイザーの役割であり、私は青森県を担当します。もちろん、アドバイザーとして学んだ知識と経験を当市のにも包括構築に役立てていきたいと思えます。

にも包括構築への第一歩は職員の皆さんの小さな気づきから始まります。様子の心配な市民の方がいましたら、自分一人で抱え込まずに周り相談し、福祉総合相談室につないでいただきますよう引き続きよろしく願いいたします。

放送日 令和5年6月21日（水）
担当者 子育て支援部長 及川 浩司

おはようございます。子育て支援部長の及川浩司です。

私が部長を務めています子育て支援部の業務は、公立保育園及び学童クラブの管理運営や私立保育園及び認定こども園への入退所等に係る事務手続き並びに運営に対する支援、地域子育て支援センターあいあい及び子ども発達支援センターの管理運営、児童手当・児童扶養手当など各種手当金の給付など多岐にわたっており、会計年度任用職員を含め、総勢131名の職員で各種業務を行っているところです。そのような中、今朝は北広島市子ども発達支援センターについてお話しさせていただきます。

子ども発達支援センターは、令和元年に新築された栄町1丁目の北広島エルフィンビル3階の最新の療育設備が整った施設となっており、現在16名の職員が配属されています。職員は主に理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、公認心理師などの資格を持った専門職で構成され、発達の遅れや偏り、障がいのあるお子さんの健やかな成長と家族のニーズに応じた専門的な相談・支援や早期からの発達支援を行い、子どもと家族が、身近な地域で安心して適切な支援を受けられるように体制を整えております。

なお、子ども発達支援センターは3つの場としての役割を担っており、一つ目の「相談支援の場」として心や身体、言葉の発達に不安や心配があるお子さんを対象に、相談に応じることや福祉サービスの利用についての情報提供、障がい児サービス利用計画の作成などを行っており、二つ目の「発達支援の場」としては、障がいのあるお子さんのそれぞれの課題や問題に合わせたプログラムに沿って発達を促していくための支援を行っています。また、三つ目の「地域支援の場」としては、地域の中核的な機能として、市内に住む子供たちが利用している子育て支援センターや幼稚園、保育園、小中学校、特別支援学校のほか、相談支援機関や福祉施設と協同し、発達に心配があるお子さんに対する支援が円滑かつ効果的に実施できるよう地域支援を進めているところでもあります。

加えて、子ども発達支援センターは、発達に心配や遅れのある子供達が、楽しく遊び、色々な経験を通して心と身体の成長を促す場所であり、子ども同士・ご家族同士の賑やかな交流の場ともなっているところでもあります。

職員の皆さんには、市役所にこのような役割と機能を持った部署・施設があり、仲間の職員が日々業務に邁進していることを是非知っていただき、市民の皆様におかれましては、お気軽に北広島市子ども発達支援センターをご利用いただきますようお願い申し上げます。

放送日 令和5年6月26日（月）
担当者 建設部次長 中垣 和彦

おはようございます。建設部次長の中垣和彦です。

建設部の主な仕事は、道路、河川、公園、市営住宅などの社会基盤の整備や適切な維持管理の実施です。

道路整備については、生活道路やボールパークのアクセス道路である西裏線などの整備を進めているところです。

市内の生活道路の多くは、築造から30年～50年が経過し、老朽化が進んでおります。

市民の皆様が安全で快適に通行できるよう、効果的な整備を進めてまいります。

西裏線については、自然豊かな箇所での道路整備となることから、自然環境への影響に配慮する必要があると考えております。

工事实施前に環境調査を行い、工事区域内で確認された貴重な動植物については、学識経験者の助言を受け、移植等の保全措置を行うなど、自然環境への負荷を最小限にとどめるよう配慮して進めているところです。

3月に開通した道道きたひろしま総合運動公園線についても、工事にあたって環境保全対策を行っており、その対策の一つとして貴重な植物の移植を行っております。移植後の育成状況は良好で、開花も確認されており、保全対策として効果があったものと考えております。

社会基盤の整備にあたっては、適切な環境保全対策を行い、豊かな緑に囲まれた北広島市の環境に配慮していきたいと思っております。

放送日 令和5年6月28日（水）
担当者 建設部長 新田 邦広

おはようございます。建設部長の新田邦広です。

建設部では、市民の安全・安心と快適な生活を提供することを基本方針の一つとして、市道、公園、公共施設、市営住宅の整備並びに維持管理を行っております。また、今年度から建設部が担うこととなりました住宅施策につきましても、誰もが安心して快適に暮らせる良好な住環境の形成のため、住生活基本計画（第二次）の令和6年度の策定に向け、官民連携による取組を進めてまいります。

さて、本日のスピーチは、来年1月10日から11日にかけて開催する「ふゆトピア・フェア in 北広島」についてお話させていただきます。

このイベントは、積雪寒冷地に暮らす人々の工夫や雪国の魅力を全国に発信すると共に、幅広く情報や意見の交換を行いながら地域の活性化に繋げることを目的に、北海道、東北、北陸で輪番に開催しているものであり、昭和60年度の開催から本市で38回目となる全国規模のイベントであります。

開催テーマは、「雪との共創、新時代、広げよう北広島から」としており、雪との共存・克雪のために新たな技術や価値を生み出し、新時代に向けて北広島から発信していくことをコンセプトとして、シンポジウム、研究発表、新技術などの展示会、除雪機械の展示や実演などを、芸術文化ホール及びエスコンフィールド北海道を主な会場として開催するものです。

開催に向け現在、国や北海道及び関係機関からなる実行委員会を設置し、このイベントが北広島の特徴を活かした魅力あるものにするため準備を進めているところでありますので、皆様のご協力をどうぞよろしく願いたします。